ISSN 0386-8931

史窓

二〇一九年三月五日 印刷
二〇一九年三月九日 発行

史窓 第七六号

京都女子大学史学会

第 76 号

目 次

論 文

中世初期コルビー修道院（北フランス）の貨幣
—構築された貨幣史のもつれ—……山田 雅彦（*1*）

史料紹介

下京中大坂町年寄山中家文書……母利 美和（1）

アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著
『高貴なる用語の解説』訳注 (9)……谷口淳一 編（*21*）

書 評

John Dillery, *Clio's Other Sons, Berossus and Manetho*……星野 宏実（53）

彙 報……（67）

2019・3

京都女子大学史学会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 76 March 2019

Contents

Article

YAMADA Masahiko, Historiographie de la monnaie de l'abbaye de Corbie du haut moyen âge: Embrouillement des histoires construites des monnaies ……(*1*)

Historical Documents

MORI Yoshikazu, The Catalogue of *Shimo-gyou Nakaohsaka-chyo-Toshiyori Yamanaka-ke Monjyo* 下京中大坂町年寄山中家文書 ……(1)

TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl Allāh al-'Umarī's *al-Ta'rīf bi-al-muṣṭalaḥ al-šarīf* (9) ……(*21*)

Review

HOSHINO Hiromi, '*John Dillery, Clio's Other Sons, Berossus and Manetho*' ……(*53*)

Miscellaneous……(67)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES
Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

京女史学会の一年（1）

新入生歓迎バスツアー
4月5日(木)
善峯寺

新入生本願寺参拝

善峯寺

夏季史学会旅行
8月6日(月)～7日(火)
真田宝物館・善光寺・松本城

善光寺にて

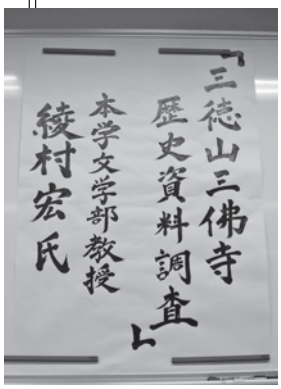
真田邸

宿泊先での会食風景

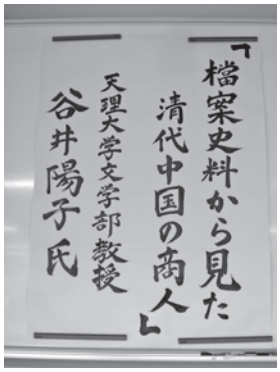
京女史学会の一年（2）

秋季公開講座

11月８日（木）



日本史の綾村宏 教授



ゲストは天理大学の
谷井陽子 先生

コース分け説明会

12月７日（金）

西洋史教員によるコース説明

彙　報

二〇一八年度　学会行事

春季学会旅行　三月二七日(火)～二八日(水)

飛騨高山方面

春の史学会旅行では飛騨高山方面を訪れました。一日目に白川郷を訪問し、二日目に犬山城と明治村をめぐるスケジュールです。

旅行初日、白川郷への訪問は天気にも恵まれ、雪が積もっているにもかかわらず暖かいという絶好の旅行日和であり、散策を十分に楽しむことができました。参加した学生たちは、京都ではなかなか体験することのない高く積もった雪と、立派な合掌造りの集落に興味津々でした。

旅行二日目、はじめに訪れたのは犬山城です。訪れた時期は丁度桜の開花とタイミングが重なっており、犬山城天守閣と桜の花の美しい情景を目にすることができ、参加者それぞれが春を満喫する姿がみられました。城内に入ると、天守に向かって急傾斜の階段がいくつも存在し、一段一段登って行くと当時の人々が城内で見ていた景色を感じることができました。

旅行は最後の目的地である明治村へ向かいます。明治村とは明治の建築技術を用いて建造された重要文化財や指定文化財を保護するために作られた施設で、村内はまるで明治時代にタイムスリップしたかのようなレトロな雰囲気でした。学生たちは明治のレトロで長閑な時間を過ごし、とても満足した様子でした。

二日間の旅行は先生方との交流はもちろん、学生同士の中も深め、新しい経験を得た実りあるものとなったようです。とても思い出深く、目一杯飛騨高山を楽しむことのできる旅行でした。

新入生歓迎会　四月二日(月)

穏やかな春の日差しの中、入学式が挙行され、史学科に新たに百二〇余名の仲間が加わりました。

新入生たちは、真新しいスーツに身をつつみ、やや緊張した面持ちで教室に入ってきました。去年の自分も同じようだったことを思い出し、普段よりも細やかな気遣いを心がけました。

史学科や史学会の説明、役員の自己紹介を行いました。私たちが学んでいることや、大学生活について伝えている時は、特に真剣に耳を傾けてくれており、これからの大学生活に対する期待が感じられました。史学会の説明の際には、時々笑いが起こり彼女たちの緊張を少しばかりほぐすことができました。

新入生にも気軽に頼ってもらえるような史学会にしていこうと改めて決意しました。

新入生歓迎バスツアー　四月五日(木)　善峯寺

本願寺参拝後、新入生は毎年行われるバスツアーに参加します。本年度は善峯寺を訪れました。新入生の皆さんはそれぞれのバスに分かれて乗車します。もちろん、史学科の先生方も引率されます。

移動中のバス車内では、毎年恒例となっている新入生の自己紹介が行われます。自己紹介では笑いが起こることも多く、終始温かな雰囲気のもと行われるので、はじめは緊張してしまう新入生もお互いに打ち解けることができ、自分の出身地や趣味などを紹介することで、新しい友達作りにつながる貴重な機会にもなっています。

目的地である善峯寺は名物の枝垂桜が見ごろで、美しい花を咲かせていました。新入生の皆さんが、先生方やバス車内の自己紹介で気になった人に声をかけて、一緒に境内を見て回る姿が多く見られ、楽しそうに会話を弾ませている様子はとても微笑ましいものでした。

本年度に限らずバスツアーは、新入生にとって新たな学生生活のスタートをきる良い機会となっていることと思います。

夏季学会旅行　八月六日(月)～七日(火)　長野

夏季史学会旅行では長野方面へ訪れ、一日目は長野までの長い道のりを自己紹介やビンゴゲームなどで盛り上がりながら向かいました。

最初の目的地である長野市の真田宝物館に着くと、宝物館には真田家に伝わる古文書や武具などが展示されており、各々が真田家について楽しく学ぶ様子が見られました。宝物館の近隣には真田邸などの旧大名邸宅などもあり、古い建物に学びながらも心癒される時を過ごしました。

二日目は同じく長野市にある「牛に引かれて善光寺参り」の言葉で有名な善光寺へと向かいました。善光寺は寺院の中では珍しい無宗派とされ、参加者の生徒各々が静かに手を合わせてお参りする姿が見られました。また、暗闇の中を壁伝いに少しずつ進んでいく胎内めぐりなどの貴重な体験ができました。

次の目的地である松本市の松本城は安土桃山時代末期から江戸時代初期にかけて造られた城で、現存する五重六階の天守の中でも日本最古であり、国宝に指定された城です。城を囲む大きな濠、その水辺に映る天守が美しく、その雄大な城の前で記念写真を撮りました。天守から見える景色も絶景で、松本市が一望できました。

宿泊した旅館では美味しい料理をいただき、カラオケ会や二次会では普段あまり関わることのない人や、先生方との交流もでき、様々な話をすることができているようでした。参加者一人一人が観光でもそれ以外でも楽しんでいる様子が見られ、大変有意義な二日間となりました。

卒業論文中間発表

日本史　一〇月三日(水)～五日(金)
東洋史　一〇月八日(月)～九日(火)
西洋史　一〇月一七日(水)～一九日(金)

秋季公開講座　一一月八日(木)

J四二〇教室

三徳山三佛寺歴史資料調査　本学教授　綾村　宏
檔案資料からみた清代中国の商人
天理大学文学部教授　谷井　陽子

コース分け説明会　一二月七日（金）

J二二四教室

本年度も一回生対象のコース分け説明会が行われました。コース分け説明会は、一回生が日本史、東洋史、西洋史の中から二回生以降のコースを決めるための説明会です。一回生がお弁当を食べながら先生方の説明を受けるという形をとります。

先生方はご自身のゼミや各コースで学べること等についてユーモアを交えながら楽しく紹介してくださり、会は終始和やかな雰囲気で進みました。一回生は今後の自分の針路について、楽しみながらも真剣に説明に耳を傾けて考えているようでした。

一回生にとって今回のコース分けは重要な分岐点で、自分が大学で何を学びたいのかを考える良い機会だと思います。悔いのない選択を期待しています。

卒業生予餞会　一二月二〇日（木）

卒業論文の提出締切日、恒例の予餞会が行われました。本年度は旅館こうろにお世話になり、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々を称えあい、とても賑やかなひと時となりました。

卒業論文は、大学で過ごした四年間の総決算です。今年度は図書館の新設に伴い、史料や論文の収集に困難がありました。しかし、先生との相談を重ね、史料や論文と向き合い、時間を忘れて学生研究室で作業をする等、卒業論文の執筆に真剣に取り組みました。締切の直前まで努力を惜しまずに粘る姿もありました。予餞会での達成感に満ちた顔は、充実した学生生活を表すとともに、卒業論文完成の実感を湧かせるものでもありました。

後輩たちも、学生生活が実りのあるものとなるように努力を重ね、皆がこの日を晴々とした笑顔で迎えられることを祈ります。

二〇一八年度　史学科講義題目

史学科共通

講義

日本史概論A　告井准教授
日本史概論B　坂口教授
東洋史概論A　松井教授
東洋史概論B　箱田准教授
西洋史概論A　桑山教授
西洋史概論B　本田教授
考古学　梶川講師
民俗学　芳井講師
日本美術史　山本講師
東洋美術史　竹浪講師
西洋美術史　吉田講師
歴史地理学　中村講師
人文地理学　松岡講師
自然地理学　谷端講師
地誌学　古関講師

講読

史学外書講読Ⅰ　谷口教授、木下講師
史学外書講読Ⅱ　谷口教授
漢文　菅沼・馬場・前田・森永講師
ラテン語　桑山教授、佐野・疋田講師

演習

史学基礎演習A　桑山・松井・母利教授、告井准教授
史学基礎演習B　谷口・早島・本田・山田教授、梅田・告井・箱田准教授

日本史コース

特殊講義

基礎から学び直す東アジアの近現代史
―日本の植民地問題を軸にして―　坂口教授
京都の近代
―その産業化と都市化をめぐる諸問題―　坂口教授
幕末維新期の政局と京都　母利教授
〝書跡資料〟概論　綾村教授
室町幕府とその時代　早島教授
古代史料概説　告井准教授
古代史の基礎知識　告井准教授
陰陽道から見る日本宗教史　梅田准教授
近世京都の宗教拠点　梅田准教授
中世前期の京都から考える日本の歴史と文化　野口講師
武士の列島展開に見る中世成立期の日本社会　野口講師

講読

日本史講読Ⅰ　母利教授、梅田准教授、佐竹・高井・田中講師
日本史講読Ⅱ　早島教授、告井准教授、木本・中村・吉住講師
日本古文書Ⅰ　綾村・母利教授
日本古文書Ⅱ　早島・母利教授

演習

日本史入門演習　綾村・坂口・早島・母利教授、梅田・告井准教授
日本史演習Ⅰ　綾村・坂口・早島・母利教授、梅田・告井准教授
日本史演習Ⅱ　綾村・坂口・早島・母利教授、梅田・告井准教授

東洋史コース

特殊講義

中国中世仏教史の諸相　松浦講師
前近代における日中交渉の歴史　松浦講師
朝鮮の歴史と対中国関係　木村講師
朝鮮の歴史と対日本関係　木村講師
一三―一四世紀の西アジア　谷口教授
イスラーム期イランの政治・文化史　杉山講師
近代中国における文化交流　箱田准教授
現代中国外交史　箱田准教授
中国出土文字史料の検討　松井教授
中国古代刑罰制度史　宮宅講師
一六―一七世紀のスペイン人のアジア進出

マカオの一世紀　中砂講師
中砂講師

講読

東洋史講読Ⅰ　箱田准教授、角谷講師
東洋史講読ⅡA　松井教授
東洋史講読ⅡB　馬場講師
東洋史講読Ⅲ　村井講師
東洋史講読Ⅳ　岡本講師

演習

東洋史入門演習　谷口・松井教授、箱田准教授
東洋史演習Ⅰ　谷口・松井教授、箱田准教授
東洋史演習Ⅱ　谷口・松井教授、箱田准教授

西洋史コース

特殊講義

英領インド帝国における政治儀礼　本田教授
近代イギリス社会の事典・辞書作り　本田教授
古代ギリシアの「ポリス」と社会・文化　杉本講師
古代ローマの神々　桑山教授
ヨーロッパ中世国制史の新たな地平　山田教授
中世後期フランスにおける王権と諸侯　頼講師
アメリカの独立革命（対英独立戦争）とアメリカ合衆国の誕生　常松講師
一八〇〇年の「革命」とアメリカ共和主義の発展　常松講師
近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会　小山講師
ポローニアと白鷺　小山講師
末期ロシア帝国と南カフカス　伊藤講師
一八世紀末のフランスから見た世界　王寺講師

講読

西洋史講読Ⅰ　山田教授、青木講師
西洋史講読Ⅱ　本田教授
西洋史講読Ⅲ　山田教授、杉本・園屋講師
西洋史講読Ⅳ　桑山教授

演習

西洋史入門演習　桑山・本田・山田教授
西洋史演習Ⅰ　桑山・本田・山田教授
西洋史演習Ⅱ　桑山・本田・山田教授

［注］Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊講義については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。

二〇一八年度　卒業論文題目

日本史コース

青山日向子　充真院の紀行文から見る変化
麻生　薫　山口県大島郡におけるハワイ官約移民についての一考察
五十嵐美里　越後瞽女の衰退と滅亡
磯　莉々花　新選組は悪か否か
稲牆　百花　近世城下町和歌山の牢番頭仲間の実態―役負担の変化・頭仲間の序列について―
井上　明香　下雑色小嶋氏からみる雑色の役割
井上　栞奈　平安時代の花宴―醍醐朝から村上朝にかけて―
上野　奈菜　近世庶民における離婚の実態―河内国河内郡日下村を中心に―
植村　沙彩　日野西資子の熊野参詣
内海なぎさ　邦字新聞から見る宝塚少女歌劇団のアメリカ公演
大月　南　竈帳から見る佐賀藩の城下町
大西優里佳　『播磨国風土記』にみる古代播磨の権力構造
岡田真奈美　寺子屋からみる近世社会の教育―江戸と大坂を中心に―
小田今日子　承平天慶の乱と中世的祈祷秩序の構成―園城寺派の僧を中心に―
尾上　翠子　伏見の宿場としての発展と地理的関係
尾宮　麻美　水口藩加藤家における江戸詰家臣と国元詰家臣の比較
金澤　優花　京都市の空襲―ウォーナーリストと空襲の関係性―
金田　満帆　熊本における奏楽
亀山　佳代　中世の塩業と金融について
川原　由佳　豊臣政権の寺社政策～豊臣政権と木食応其、寺社との関係～
樹下　莉奈　小右記からみる彰子の政治的影響力
清田満理奈　井伊家本妻と江戸城大奥の文通―書札礼を中心に―
窪田　依未　後斎藤氏の一色改姓と権力編成
倉田　優希　仏教寺院における入浴の認識と影響
黒澤　洸奈　山名文夫と資生堂の女性像―第一期、第二期の作品からみるイラストレーションと広告の役割
小木英梨奈　三河中条氏と大陽義冲―室町期の都鄙交通の一断面―
郷原　綾乃　平安期における貴族、官人の浮文・固文袴
後藤　優希　永井直清と千提寺・下音羽のキリシタン信仰
佐治　聖奈　近世大坂の出版文化―心斎橋筋の本屋より―
塩谷　瑠奈　戦時期の聖徳太子観の変遷と太子の肖像が入った紙幣
志賀　萌花　摂津池田氏の支配体制について
下坂　碧　後鳥羽院政期における一条家と公武関係
杉本　詩穂　三二年テーゼにおける反天皇制の発生と改善への考察
曽我部有華　近世大坂の治水と新田―大阪湾岸を中心に―
園田　愛実　ウィリアム・メレル・ヴォーリズと近江八幡
髙崎智紗子　占守島の戦いにみる日ソ両国の戦闘意義
高田　梨央　平安時代女房装束の成立過程―袿を中心に―
滝　来実　日本中世史における打物の登場
竹田　莉子　名所案内記にみる京都の近代化
龍野和華子　日本陸軍における変遷と改革
田中　華琳　太平洋戦争末期における輸送戦士の存在意義

檀上　遼　同乗から見る後期摂関権力の確立
豊田　結花　初期室町幕府における二頭政治に対する足利直義の関わり
中田ほのか　興福寺寺辺新制の考察
野口　夏美　蘇我蝦夷・入鹿と乙巳の変
野田　真由　平氏による大規模な軍事的動員の意義
則藤　千裕　青い目の人形ジュリエットから見る戦前戦後の日米交流
橋本　知佳　敵国人と見なされた日系カナダ人―アングラー収容所における収容者の思想と収容生活―
羽谷　優花　天武諸皇子の立場の変化とその意味―天武朝から文武朝を中心に―
浜脇　紗来　キサキの身位からみる十世紀における親王の地位
林　果鈴　プロパガンダポスターの成立過程と作り手の意識
平井　里奈　太平洋戦争下のドイツ人社会―滞日ドイツ人の証言をもとに―
平林　桜　江戸時代における飯盛女の存在形態
深田詩央里　在日朝鮮人社会の変容と在日朝鮮人文学―金城一紀を中心に―
藤井菜々子　大名交際から見る柳沢家の存続
藤田　歩実　出版物からみる宮武外骨の思想
藤田　麻里　近世京都における都市開発と遊所化―祇園社領広小路の事例を中心に―
二口由莉華　「織田信長の禁制における礼銭禁止について」
堀　加奈実　織田信長の対仏教勢力政策の転換―湖北一向一揆を中心に―
前田　千尋　近江天保一揆における村と義民
松平　苑子　日本古代における「刀自」
丸本　悠乃　開帳をめぐる人々―江戸時代の石山寺を中心に―
水口友里佳　薩摩藩における密貿易―調所広郷の財政改革事業に注目して―
峰　成美　細川家から見る茶の湯の価値とその存在
壬生　百香　女子挺身隊の方針と生活～豊川海軍工廠を中心に～
宮本　麻菜　皇位継承における文武天皇の影響
森井　春陽　近世祇園会における寄町制度―北袋屋町文書「祇園会地之口古例之帳」を中心に―
森下友美子　江戸時代京都の建築における許可申請と規制の実態―『成就院日記』の分析から―
山岡　茉由　東大寺修二会の価値―東大寺上院修中過去帳を中心に―
山口　由起　正平地震と南北朝の動乱
山口　優海　幕末における尾張藩の情報伝達―在京御用達役に注目して―
山田　真梨　加賀藩御細工所における能方との兼芸について
山守　紗世　台湾統治初期における阿片専売制度の導入と収益
若林　美玖　万世特攻から「特攻」を考える
渡邉　圭子　即成院の二十五菩薩練供養―その成立と意図―

東洋史コース

赤熊　由季　陳水扁の選挙戦略と台湾アイデンティティの高揚
池田　凜　中世イスラム都市におけるマドラサの役割―シリア・エジプトを中心に―
岩本　栞奈　イスラム成立期におけるリバー禁止の起源と展開
紀伊貴和子　五・四時期からみた女性の恋愛と結婚―文学作品や婦女雑誌を通して―
小澤　真帆　ムガル朝皇帝アクバルの宗教政策―マフザルとディーネ・イラーヒーを中心に―
近藤　まゆ　近代エジプトにおける灌漑システム移行と農村社会
坂口　琴音　現代ゾロアスター教徒の内部対立問題
新主　紀香　『名公書判清明集』からみた宋代女性の実像
高橋　美帆　中国古代の洛陽と『周礼』
高見　茉奈　東洋史における三味線のルーツを探る―三味線弾きの目で見る撥絃楽器の変遷―
玉置理華子　張作霖のパーソナリティーの対外政策における影響
西山　加純　満映の改革者　甘粕正彦の思想
平石みのり　トルコとエジプトにおけるヴェール問題
堀口　晴菜　ミマール・シナンのモスク建築―四本柱集中式から六、八本柱集中式へ―
松本　紀保　漢帝国成立後の劉邦集団の変遷について―蕭何の子孫を中心に―
溝上　綾菜　唐代長安の日本人留学僧の暮らし
光藤　遥香　新疆ウイグル自治区における少数民族教育とその問題―一九九〇年代を中心に―

西洋史コース

東　うらら　ヴェルサイユ宮殿における帯剣貴族の役割
石谷　彩花　政権掌握前後のナチス・プロパガンダの効果
上野　芳恵　中世ヴェネツィアの商業と技術改革
植村　帆南　ハトシェプストの「記録の抹消」
大坪布仕子　ネロと女たち―ユリア・アグリッピナ、アクテ、ポッパエア・サビナ―
加未　莞奈　中世ドイツの都市景観と発展
勝股　真弥　孤立から協調へ―外務官僚の台頭と世紀転換期のイギリス外交―
加藤　綾子　「スキタイ」とその実態
角　穂乃花　マケドニア王家のオリュンピア祭利用
川崎佐和佳　奴隷解放宣言からキング牧師演説までの黒人解放の道のり
菊地　里奈　中世後期におけるイングランド王権とボルドーワイン
楠澤　邑美　アングロ・サクソンとデーン人の衝突―アルフレッド大王とデーンロー―
小泉菜々子　ドムス・アウグスタにおける妻の政治

小島　遼子　的役割
島田　雅子　一九世紀ドイツにおける国民国家と軍隊
ナチスのプロパガンダとワーグナー
―ワグネリアンとしてのヒトラー―
島袋さくら　ナチ支配下ウィーンとフランスにおける強制移送政策―ユダヤ人統率組織に注目して―
清水　綾里　迫るペスト禍―ヨーロッパ社会の動揺―
鈴木　彩楓　「伝統／神話」の形成とナショナリズム―一九世紀後半のカナダと二〇世紀初頭のオーストラリア―
即席　詩織　二〇世紀アメリカにおける東欧系ユダヤ移民の上昇過程と教育
竹内　夢乃　流動するアメリカ社会においてブラックミュージックが人々に与えた影響
田渕　真理　ルイ一四世の王権表象
筒井　陽香　アクエンアテンの宗教政策
中村　知菜　一九世紀末から二〇世紀初頭のイギリス女性労働運動―メアリー・マッカーサーの及ぼした影響―
西薗　奈那　エフェソスのアルテミスとその女性神官
橋本　沙織　第一次世界大戦下のアメリカにおける民衆意識の統制
葉山佑里子　一七世紀ステュアート朝の宗教政策と長老派の伝統
東野　彩香　指導者からみるメキシコ革命の成否
―ロシア革命と比較して―
藤原　遥　サライェヴォ事件と近代セルビアにおける暗殺の伝統
藤本　紗奈　一六―一七世紀アントウェルペンにおける絵画市場の構造転換
細田　美結　共和政末期から元首政にかけての食糧供給
松良　侑佳　ベトナム戦争とジャーナリズム
水川　紗希　中近世ヨーロッパ民衆の食糧事情―ドイツ都市の事例―
山口　尚子　ウィトルウィウス『建築書』からみる都市の理想と実態
山田　志保　一九世紀イギリスにおけるコミュニケーションと娯楽

二〇一八年度　大学院文学研究科

史学専攻博士前期（修士）課程講義題目

特論

日本古代史料読解　告井准教授
歴史資料関係論文の分析　綾村教授
歴史資料関係史料の分析　綾村教授
中世から織豊期にかけての基本的文献研究　早島教授
中世から織豊期までの基本的文献を読む　早島教授
陰陽道から見る日本宗教史　梅田准教授
近世京都の宗教拠点　梅田准教授
高橋秀直『幕末維新の政治と社会』を読む　母利教授
笠谷和比古『近世武家社会の政治構造』を読む　母利教授
武田尚子著『ミルクと日本人』を読み、史料の理解と図表の作り方・示し方を考える　坂口教授
江原絢子他著『日本食物史』を読む　坂口教授
地域の記録を読む　小林講師
古文書の理解と読解　河内講師
古記録の理解と読解　河内講師
周王朝の国制研究　松井教授
近代中国における国際法受容　箱田准教授
近代中国外交史　箱田准教授
明末のキリスト教士人たち　中砂講師
明末のキリスト教宣教師による翻訳事業　中砂講師
前近代アラブ地域のウラマー　谷口教授
イスラーム文化における口承の尊重　谷口教授
※末期ロシア帝国と南カフカス　伊藤講師
※一八世紀末のフランスから見た世界　王子講師
後一世紀のローマ帝国　桑山教授
後二世紀のローマ帝国　桑山教授
中世後期・近代初期の市場発展とその変容　山田教授
近現代イギリスのメディア的権力者　本田教授
第一次世界大戦前ヨーロッパの内政と外交　常松講師
※近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会　小山講師
※ポローニアと白鷲　小山講師

（※は学部共通）

演習

日本史演習Ⅰ・Ⅱ　告井准教授
日本史演習Ⅲ・Ⅳ　綾村教授
日本史演習Ⅴ・Ⅵ　母利教授
日本史演習Ⅶ・Ⅷ　梅田准教授
日本史演習Ⅸ・Ⅹ　坂口教授
日本史演習Ⅺ・Ⅻ　早島教授
東洋史演習Ⅰ・Ⅱ（前期のみ）　松井教授
東洋史演習Ⅲ・Ⅳ　箱田准教授
東洋史演習Ⅴ・Ⅵ　谷口教授
西洋史演習Ⅰ・Ⅱ　桑山教授
西洋史演習Ⅲ・Ⅳ（後期のみ）　山田教授
西洋史演習Ⅴ・Ⅵ　本田教授

［注］特論については、同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究Ⅱ　綾村教授
日本史特殊研究Ⅲ　母利教授
日本史特殊研究Ⅳ　坂口教授
日本史特殊研究Ⅵ　早島教授
東洋史特殊研究Ⅰ　松井教授
東洋史特殊研究Ⅳ　谷口教授
西洋史特殊研究Ⅰ　本田教授
西洋史特殊研究Ⅲ　桑山教授
研究指導　綾村・早島・桑山・本田教授

二〇一八年度　博士論文題目

小南　妙覚　慈覚大師円仁将来目録の研究―入唐求法の活動と成果―

二〇一八年度　修士論文題目

小森麻祐子　一一世紀北部フランスの新興領主家門の上昇―ノルマンディ境界地域のベレーム家の場合―

坂根　早織　光明皇后の信仰―仏事施策の実態からみる―

長島　茜　明治期における京都府南山城地方相楽郡の茶業史―茶貿易の問題とその関連活動―

樋上　瑞希　奈良時代の女性官人―制度と実態の間―

牧野　千里　平安期における随身賜与からみる摂関権力の展開

溝岡　愛子　艦内新聞の基礎的研究―起源と定義、およびその発行―

武藤　真由　越後長岡藩足軽組の職掌と人材選定

二〇一八年度　大学院行事

卒業論文発表会　四月二四日、二五日、九月一七日

『婦女雑誌』にみる女子学生の表象と現実　M1　鈴木　友理

ハインリヒ獅子公の領邦政策と都市建設―リューベックとシュベリンを中心に―　M1　桃津　郁花

ウル第三王朝における王の神格化　M1　澤田　奈摘

ヘシオドスと古代ギリシア社会　M1　恒次　悠里

日本統治期台湾における茶道文化―『台湾日日新報』から見る―　M1　黄　子瑜

大学院歓送迎会　五月九日

市場小路寺町本店にて

春期例会　六月二九日

中世末期都市ベルンの門閥家門と互恵関係　D1　井上こころ

バルカ家によるメルカルト＝ヘラクレスの政治的利用　D1　岡村　美幸

秋期例会　一〇月三一日

「陽秋」―東晋期における皇帝所生母の避諱―　OD　織田めぐみ

修士論文中間発表会　一一月六日、七日、九日

京都南山城地域の茶業史―海外向け煎茶と改良運動―　M2　長島　茜

艦内新聞の基礎的研究―日本海軍の海上新聞―　M2　溝岡　愛子

光明皇后の信仰―仏事政策の実態からみる―　M2　坂根　早織

一一世紀北部フランスにおける新興領主家門の上昇―ノルマンディ境界地域のベレーム家の場合―　M3　小森麻祐子

越後長岡藩における足軽の職掌と組織体制　M2　武藤　真由

日本古代の女性像―『続日本紀』よりみる女性仕官者たち―　M2　樋上　瑞希

平安期における随身賜与からみる摂関権力の展開　M2　牧野　千里

研究室だより

今年度、文学部史学科は一二四名の新入生を迎えました。二〇一八年末時点で、史学科の在籍学生数は、二回生が一一九名、三回生が一三四名、四回生が一三〇名、五回生以上が一四名で、合計五二一名となっています。

大学院については、博士前期課程に日本史一名、東洋史一名、西洋史三名、後期課程に西洋史二名の新入生が加わりました。その結果、前期課程は、一回生五名、二回生六名、三回生一名の計一二名となり、後期課程は、一回生二名、二回生一名、三回生一名の計四名となりました。さらに、特別研修者四名を加えた合計二〇名が在籍し、研究に取り組んでいます。

専任教員は、日本史六名、東洋史三名、西洋史三名の計一二名でスタートしましたが、ただし前期は山田雅彦教授が国内研究員として他大学で活動され、不在でした。後期になり全員が揃ったのも束の間、残念なことに東洋史コースを長年支えて来られた松井嘉徳教授が一一月一三日にお亡くなりになりました。また綾村宏教授が三月末で定年を迎えられ、早島が、来年度から関西学院大学に転任するなど、専任教員の構成も様変わりします。

二〇一八年末には、現一回生の二年次以降のコース分属がほぼ定まりました。新年度からそれぞれのコースで頑張ってほしいと思います。

（一月一七日記　史学科主任　早島大祐）

学会委員

二〇一八年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長　東洋史三回生　藤岡　美波
副委員長　日本史三回生　伊藤緋那子
会計　日本史三回生　添島　鈴佳
広報　日本史三回生　松浦　久美
書記　日本史三回生　高柳　結
SSA　西洋史三回生　春口　果穂
日本史二回生　澤井　真帆
日本史二回生　中澤　晴香
日本史二回生　針崎ももな

東洋史二回生　明石　愛理
東洋史二回生　元木茉里奈
西洋史二回生　安武　佑菜
一回生　伊藤　瑞夏
一回生　河野茉柚子
一回生　小杉　玲奈
一回生　豊村　瑞季
一回生　西岡　舞桜
一回生　宮下さくら

京都女子大学史学会会則

（二〇〇三年三月二〇日制定）

（名称）
第一条　本会は、京都女子大学史学会と称する。
（事務局）
第二条　本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。
（目的）
第三条　本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学界に寄与することを目的とする。
（会員）
第四条　本会は、京都女子大学文学部史学科の専任教員および本会が特に認めた者をもって組織する。
（事業）
第五条　本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
1　機関誌『史窓』の発行。
2　講演会、研究発表会。
3　その他必要な事業。
（代表）
第六条　本会に代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。
（委員会）
第七条　『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。
1　編集委員長　一名
2　編集委員　若干名
（総会）
第八条　本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。
（事業費）
第九条　本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもってこれに当てる。
（会則の改廃）
第十条　この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。
附　則　この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

（二〇〇三年三月二〇日制定）

第一条　京都女子大学史学会（以下「本会」という）は、機関誌として『史窓』（以下「本誌」という）を刊行する。
第二条　本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。
第三条　原稿は、未発表のものに限る。
第四条　本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。
第五条　執筆要項などの細則は、別に定める。
第六条　この規約の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を得て実施する。
附　則　この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

松井嘉徳先生のご逝去を悼む

昨年夏以来、入退院を繰り返し療養生活を送られていた松井嘉徳先生が、二〇一八年一一月一三日、永眠されました。享年六二歳。学生たちのことを思い何度か来校された折には、快復への期待もありましたが、あまりに早い訃報に接し残念でなりません。安らかなご冥福をお祈りします。

編　集　後　記

本号では、西洋史の山田先生の中世初期北フランス貨幣史の論文、博士後期課程の星野宏実氏のジョン・ディレリー著『クリオの別の息子たち』の書評、谷口先生と母利の史料紹介を掲載しました。本誌の論文・研究ノートの掲載に際しては、前号から査読制を導入しています。積極的なご寄稿をお願いいたします。（母利美和）

『史窓』掲載論文・資料等の京都女子大学学術情報リポジトリへの登録と公開申請について

京都女子大学では、二〇一三年度より、学内の学術研究成果物を電子的に収集・保存して学内外に無償で公開し、広く社会に提供することを目的とした「京都女子大学学術情報リポジトリ（京女ＡＩＲ）」の運用を開始しました。それにともない、『史窓』におきましても、執筆者全員に対し、あらかじめ同紀要掲載論文・資料等のリポジトリへの登録と公開への申請をお願いしております。この登録と公開申請の手続きは、公開に必要な複製権と公衆送信権の許諾をお願いするもので、著作権の譲渡をお願いするものではありません。

今後、本誌に投稿される方のご理解とご協力をお願いします。

執筆者紹介

山田　雅彦　本学教授
母利　美和　本学教授
谷口　淳一　本学教授
星野　宏美　本学大学院博士後期課程

編集委員

母利　美和（委員長）
桑山　由文
箱田　恵子
早島　大祐
本田　毅彦

史窓　第76号

二〇一九年三月五日　印刷
二〇一九年三月九日　発行

編集　『史窓』編集委員会
発行　京都女子大学史学会
京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
☎（〇七五）五三一―九一〇〇
代表者　早島　大祐

印刷　株式会社図書印刷　同朋舎
京都市下京区中堂寺鍵田町二
☎（〇七五）三六一―九一二一